

皮膚科外来診療における ワイヤレスエコーの活用 Part 2



Lecturer
Y. Kurashige

受講料
無料

日時 2022年 8/2(火) 19:00~19:40 (40分間)

申込締切 2022年 8/2(火) 当日

申込フォームはこちらからも
アクセス可能です。

定員 1,000名 ※定員となり次第お申込みを終了させていただきます。

費用 無料

申込 専用申込フォームからお申込みください。
(<https://bit.ly/3Lkm2bm>)



— 倉繁先生からのメッセージ —

皮膚科の外来診療において、皮下の病変を診察する機会は稀ではありません。日常的疾患、例えば粉瘤や脂肪腫、粘液嚢腫などの典型例であれば、多くの皮膚科専門医は視診と触診のみで診断を導くことができると思われます。しかしながら、非典型例や深部の病変などで所見が不明瞭な場合には、診断を補完するために画像診断が有用となる場合があります。

また診断のみならず、皮下膿瘍や皮下血腫の切開・除去や深在性腫瘍の摘出など、外科的処置を行うことが前提であれば、画像診断で病変の局在(深さ、範囲、周囲組織との関連等)に関する情報を得ておくことが重要となります。その際に病院などの環境であればエコーを含む画像検査をオーダーすることもできますが、従来クリニックや在宅では画像検査を行うことが困難でした。

しかしながら近年上市された小型のワイヤレスエコーを使用することで、クリニックや在宅など環境を問わず、迅速・簡便かつ高精度のエコー検査を実施することができます。またワイヤレスエコーは操作が簡便であるため、多くの皮膚科専門医が典型的な色素性母斑や脂漏性角化症であってもダーモスコピーで診断を補完するように、典型的な粉瘤などであってもワイヤレスエコーで診断を補完することができます。

このように、皮膚科外来診療でワイヤレスエコーを使用することで多くのメリットを得ることができます。

今回「皮膚科外来診療におけるワイヤレスエコーの活用 Part 2」と題して、
皮膚科外来診療におけるワイヤレスエコーの活用をご紹介します。

講演時間
40分

演者 倉繁 祐太 先生 倉繁皮膚科医院 院長